

神田川

お茶の水橋

JRお茶の水駅

丸善

佐友堂

日立製作所

ニコライ堂

日本大学

日本大学

新日本証券

三井海上火災

千代田線

新大塚駅

聖橋

至 秋葉原

木村昌福少将 (昭和17年11月)



(写真提供・雑誌「丸」編集部)

大正二年(一九一三)十二月海軍兵学校卒業の第四十一期生だが、昭和十五年(一九四〇)三月静中卒業の第五十五回生で昭和十八年九月海軍兵学校卒業の第七十二期生の私

強く打たれる。自己を控え、他人を立てて大事を成就させるあの処世術は、現代社会にも普及させたい。諸事実をよく調べ、公平に取り扱った著者の努力を高く評価する。

(最終海軍大尉)も、寡黙の木村さんがこれほど卓越した指揮官であつたとは知らなかつた。

読後感を率直に述べたい。

戦争中、木村司令官のごとく状況判断に優れ、毀誉褒貶にとらわれずに最良の決断ができる海軍兵学校出身のエリート・アドミラルが多くいてくれたらと、痛切に感じる。

『天地心』を座右の銘とし、『人命尊重』を信条として、いくたびも至難の遭難者救助作戦に率先挺身して成功した木村司令官の大きな人間性に

(筆者は、焼津市の旭漁業生産組合組合長・理事で、静岡ネービークラブ会長)

●木村司令官は終戦直前、海軍兵学校防府分校教頭に、そして十一月中将に進級、消滅寸前の日本海軍における最後の将官進級者の一人になりました。昭和三十五年二月十三日逝去、享年六十八歳。

なお、光人社への愛読者カードの中に、広島市在住の熊切達治さん(43期)の「計らずも木村提督が先輩であることを知り、感銘入りのものがある」とありましたことを付記いたします。

その後の同窓会活動

(平成9年12月・10年4月)

◇第16回叩高会ゴルフ会

9年12月1日(金)

箱根カントリー倶楽部

参加者：24名

優勝：小澤皎二(67期)

2位：奥沢 徹(59期)

3位：吉崎英輔(68期)

◇役員会

12月8日(月)

若手6名を含め9名

ルノアールにて協議

◇役員会

12月22日(月)

大石会長以下7名

重要事項など協議

◇幹事会

10年1月21日(水)

新日本証券食堂

出席者：27名

報告・協議および会報44号

の発送依頼

◇役員会

4月8日(水)

新日本証券喫茶室

14名出席。今後の運営、日程等を協議

◇同窓会正副会長会など

4月25日(土) 13時より

母校内の同窓会館にて

大石会長の代理で、上杉副会長出席

・諸事業の推進と役割分担
・25周年記念事業への取り組みなど報告・協議

~~~~~

## 第16回叩高会

## コンペに優勝して

私の田舎は安倍川上流で、梅ヶ島温泉へ行く途中です。そのため安倍川筋の事は詳しいが、大井川の事は全く知らず、この5月の連休を利用して2泊3日の行程で川根路から、寸又峡、接阻峡、井川湖と新緑を満喫してきました。帰ってみると、上杉先輩から関東同窓会々報にコンペ優勝の寄稿の依頼が入っていました。

昨年12月1日は朝から曇り、参

加者24名でした。同期の牧田・鳥居・川上諸兄と申し合わせ一緒に組合せを山崎さん(新日本証券秘書室)にお願いし、インよりスタート致しました。箱根CCはこれ迄何度もラウンドしていますが、余り良いスコアの印象はありません。ちなみに前回は48・48の12位でした。

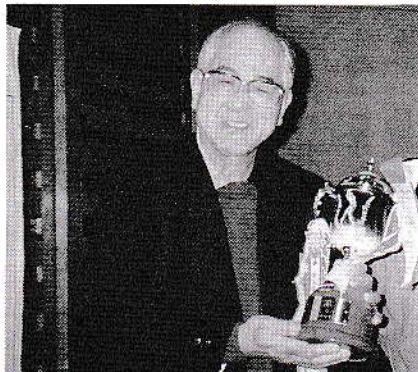
実は一昨年現役を退いてから、家より25分の東京国際CCの会員となり、昨年はこれ迄最高の74回をこなし、鉄砲も数を打てば当たる類で若干調子も上っておりました。最初のショットはダボでしたが、イン45・アウト41でホールアウト出来ました。ハンデイキヤップNo.1の4番で、バーディをとったのが強く印象に残っています。胸をはってトロフィーを手にし、

本当に良かったと思っています。心から大石会長はじめ皆さんにお礼申し上げます。

先輩・後輩の方々と楽しくプレーができる叩高会ゴルフ会——友人を誘って多数参加しましょう。

「やましち」特製のワサビ漬を、またご賞味いただく機会を与えてくださいますようお願いいたします。

(67期 小澤皎二)





# 同期会など

## 四八期

私達48期の同窓生は、昭和八年に一八八名が卒業し、六十五年後の今日では一一四名が死亡（戦死、戦病死、病死等）、生死不明者が十四名、現存者が六十名であります。その現存者も健康者と病弱者にわけると健康者が2、病弱者が3の割合です。

現在人間の寿命が八〇年代の人生時代とはいえ、八〇年代は毎日毎日の生活に相当のきしみが加わっております。これは毎年実施されております同期会のメンバーが、会を始めた頃（十五年位前）五〇一六〇名の参加者がおりましてが毎年何名かが欠けてゆき、今年の四月十八日の集いは僅か十一名でした。それでも出席者の大部分が妻帯者にて来年は夫婦にて出席しようではないかとこの声がありました。これも元気な出席者が段々に減少してゆく傾向だという事をつくづく感じた次第です。

お互いにこれからも健康に留意し、来年の再会をちかっと解散いたしました。

## 五一期

（黒水高典）

関東地区に在住している同期の友が平成十年四月十四日に四谷のスクワール麹町の宴会場に集まった。今年の出席者は十三名であつたが、広瀬毅君の名司会で楽しい一時を過ごした。久しぶりに出席した者が三名いる。諫山廉君、田中賢一君、寺尾利男君であり、お互いに旧交を暖めた。

その中でも田中賢一君は（財）特攻隊戦没者慰霊平和祈念協会の機関紙の編集人を務めており、当日会報「特攻」を全員に配布した。この会報では、さる日の大戦の解釈に対する政府の弱腰とジャーナリストの歪曲報道の誤りを指摘している。戦中派の我々としては同感であり、我々が体験した事実を正しく後世に伝えてゆく責任のあることを痛感した。



た。

出席者の多くの人は健康上でどこかに欠陥を持っており、そのことがスピーチで言われていたが、出席することが出来るだけでも有り難いことである。狩野君は林業が現在では難業であること、寺尾君の外地での大事な働きとその後の闘病のこと、諫山君が六十

五歳で運転免許を取り今はパソコンを使いインターネットを利用してゐるとのこと等が話された。

この一年間に、大富部国男君と牧野三郎君が亡くなつてゐる。牧野君はこの会への欠席通知を出したあとで亡くなつてゐる。出席通知を出した後で急病と業務多忙で二名が欠席した。当日の出席者は写真の前列左から鈴木忠男、広瀬毅、狩野安彦、寺尾利男、永井五一郎、高橋達郎、後列左から玉越俊一、難波悦朗、田中賢一、渡辺功、諫山廉、林盛次、原崎郁平。

なお、この報告を書いている間に静岡の正野良市君が四月十五日に死去したとの知らせがあつた。残念なことです。（原崎郁平）

## 五三期

今年の同期会（三月十七日）は、卒業後六十年に当たるとか。斯く申す小生、幹事諸兄のご尽力にも拘らず卒業後五十年の会が「浮月樓」で開催された時と、平成四年新日本証券伊豆熱川荘以外欠席ばかりなので、幹事への言訳を考えな

がら東京駅より新幹線に飛び乗る。

雲一つない好天気で秀麗富士を眺めている内に、懐しい龍爪山が目に入つて来る。学校で登山した事を思い出している内に早や静岡に到着。会場のホテル・センチュリー静岡を探し当て、未だ間があるので駅弁の鯛飯を求め広場で味を懐しみ、会場に顔を出すと、受付には早や芹沢・新村等幹事が顔を見せ級友が続々と集つて来ている。出発する前、家で在学中の写真を出展する鏡で穴のあくほど見つめ往事の記憶を掘り起した筈なのに、一目見てパツと判らない級友がいるのには長い時が流れたのだなと痛感する。

当日の出席者は夫人四人を含め三十六名。乾杯の音頭は森鉄樹君（大病をしたとはとても思えない気合の入った「号令」で陸軍経理学校卒の元経理将校だと感心する）がとり、早速昔話に花が咲く。途中出席回数少ない小生、小野君等が幹事より指名され、近況報告をする。会場で幹事作成の卒業後五十年と六十年の記録及び入学時二百三名の



名簿を頂戴する。現時点で生存確認者九十七名、住所不明者十名、死亡者九十六名。

我々大正生は、人生僅か二十五年で終りといわれて育つて来たが、級友の生命力の強さに感銘を受けた次第。校歌全歌詞の斉唱で終り、又会い度いねと言いながら散会。

小生駅前よりタクシーで母校へ直行。テニスコートで練習中の部員相手に往事のテニスに就いて大法螺を吹いた所、部長の先生に紹介するからと言われ、慌てて退散。野球部の練習を見て、帰りは徒歩で昔を偲びながら堀端を通って駅へ向う。足が痛くなったが有意義な一日でした。(加藤俊雄)

## 六〇期

四月十八日(金)静岡駅前の日興会館で、同期会が開かれた。出席者四十六名。関東から上杉重吉、笠間達男、原善三郎、山本正三が参加した。

最も遠方の鳥取市から参加の岡本正信の乾杯で会が始まり、恒例の杉本

武の音頭の校歌・応援歌の斉唱まであったという間の二時間であった。

毎年、珍らしい人の参加があり古希を迎えて同期生の親睦はますます深くなっていくが、卒業して五十三年、物故者四十九名、住所不明者二十三名あるのは残念である。

来年は四月十六日(金)に



やると幹事の才茂登英が発表してお開きになったが、二次会・三次会に散っていく元氣者たちの姿があつたのは頼もしいかぎりである。

(笠間達男)

## 六一期

〈古希記念同期会に参加して〉

少年易老學難成

一寸光陰不可輕

未覺池塘春草夢

階前梧葉已秋聲

朱熹

静中六十一期同期会総会は、毎年四月の第二土曜日に開催する習わしである。今年は、齢七十になることから古希を記念して、幹事の諸兄のご努力により当時の思い出を記した文集「生乱世(乱世に生きる)」の刊行、各自の名前入り湯呑み茶碗を記念品として配布。恩師諏訪卓三先生、八十島実先生をお招きして、去る四月十一日に静岡ターミナルホテルで開催された。

開催に先立ち、五時より慰霊祭が行なわれた。同期生の西山導師の宰領、望月俣君の司会で、ホテルのため線香に代えて献花方式により六十四

名の物故学友のご冥福を祈った。

午後六時からの総会には、何と九十六名が参加。お互いに、文集の原稿作成時に、当時に思いを馳せた事もあつて、中学時代の思い出話にいつもより花が咲き、旧交を温め、時間の経つのを忘れて、気が付くと、恒例の望月良君の校歌の締めであった。

思えば、わが六十一期は、静中入学の年に(昭和十六年)大東亜戦争勃発。卒業の年に(昭和二十年)終戦。最高学年になることなく四年で卒業することとなり、五年生と一緒にの卒業式。学校での勉学は二年生の時まで、三年の頃より学業の合間をみて農家等に勤勞奉仕、四年からは軍需工場への勤勞動員で授業は殆どなかったため、中学時代を通し学問を学ぶ機会が失われた。また、修学旅行は、戦争のため取り止めとなりその経験は無い。戦災で写真屋が消失したので記念となる卒業写真もない特異な学年である。

明日があるかどうか分からない時代、物のない時代、インフレ・闇市、物の豊富な時

代、戦争のない平和な時代、バブル経済とその崩壊、超低金利時代と多様な時代を無我夢中で生きてきたが、何時の間にか卒業以来半世紀が過ぎており、文頭に掲げた漢詩が浮かんた。

とかく年を取ると、将来の事を思索するよりも、過去の事、それも苦しかった事を美化して思い出す傾向がある。これも老化現象の一つかと思われるが、これからの人生何時までか分からないが、マイナス思考にならないよう気を付けて生きていきたいと念じている。(濱田茂明)

## 六四期

平成十年の新年会は山下啓也君の急逝、また前号で我々64期の「七夕の会」の歴史などを楽しい文章で紹介してくれた渡辺素夫君が昨年末に脳梗塞で倒れ、二度の手術の後、右半身不随で目下厚木市でリハビリ中とのこと、そんな事もあり、連絡もおそくなって淋しい初顔合せとなった。名波倉四郎君の挨拶のあと、久しぶり出席の武田英夫君の話を中心にして、少人数のため



各人の話を良く聞くことが出来、又加藤君の奥さんの心温まる家庭料理に舌鼓を打ちつつ、時の経つのを忘れた。

毎回出席の仲野実君は得意の自転車走行中転倒して目下療養中。出席は、岩本吉雄、村上喜代二、永田進一、山本和彦、長谷川直和、栗田行雄の諸兄と小生であった。

春のゴルフ会は、五月十四日に小田急西富士ゴルフ倶楽部で開催。参加十八名、和気満々一日を楽しんだ。優勝は渡辺進式君、準優勝は漆畑輝

夫君。

最後に渡辺素夫君の一日も早く元氣になれんことを祈つてやまない。

(野澤正憲)

## 六八期

### 〈20世紀最後の集い〉

前回の総会から三年たった四月四日、20世紀最後の同期会が久し振りに静岡で開催された。

桜も満開、静岡祭りの真っ最中。恒例の大御所花見行列や、駿府城登城行列が行われる日もあった。

今年はNHKの大河ドラマで徳川慶喜が、放映されていることもあり、総会に先立って、幹事の皆さんの配慮で「21世紀を目指す静岡の検証」として、黒沢脩氏(81期、静岡市教育委員会主幹)による「徳川慶喜」講演会や、静岡県舞台芸術公園や駿府公園に完成した東御門と巽櫓の見学会が行われ、卒業後約半世紀が過ぎた静岡の町の変貌をしつくりとみる事ができた。

総会は百名以上の同期生が集まって、「ホテル センチュリー静岡」で開催された。三

年前の総会は還暦を迎えたばかりで、万年青年を自負する人達が多かったが三年もたつと、自称する人達が多くなつたような気がした。

それはともかくとして、校歌斉唱、恩師、会員物故者の追悼、事業・会計報告、会員動静報告があった後、懇親会に入った。

懇親会には懐かしい恩師の方々も大勢出席されており、学校時代の悪さをそこかしこで暴露され、還暦をとくくに過ぎた悪童共の顔が赤くなったり、青くなったりする光景が随所で見られた。

三年ぶりにあった人達も多く、お互いの近況を交換しあつたりして、少しでも空白の時間をなくそうとしていた。

あつというまに所定の時間が過ぎ、再び校歌を斉唱し、21世紀の再会を約して散会した。

散会後は、夜桜乱舞が行われている御幸町から浅間神社などの静岡市の中心街に、それぞれのグループに別れて散っていった。

(雨宮明生)

## 静岡・静岡テニス部 関東OB会

67期 児島 英男

テニス部関東有志の集いが平成9年10月18日(土)秋晴れの下、明治神宮外苑テニスコートで開かれました。59期の清水汪先輩はじめ、往年のプレーヤー達が年齢差も忘れ、腕を競い合い、夜は青山の「釜八」で、懇親会が催された。宴会だけの人達も集まり、夜の更けるのも忘れ、昔話に大いに盛りあがった。

大岩の旧制静岡高校のテニスコートを借りて練習させていただいた話、戦争前の長谷の校舎の頃のテニス部の話。また、戦後間もなく東京で開かれた新制高校のテニス大会に出場の為上京したものの泊る宿が無いので、当時まだ東京大学の大学院生だった杉山英男先輩(58期)の大家の下宿に転り込んで泊めていただいた話、その杉山先輩は最近もつぱらゴルフに専心されており、霞ヶ関カンツリーのクラブコンペで優勝された話等々、非常に楽しい一タでした。

終戦直後世の中まだ貧しく、硬式のテニスなど、どうして打つのか全然知らなかった私達に、シベリアから復員されて間もない忙し

い中をテニスのイロハから教えていただき、夜は夜で本通りの御自宅でいろいろと教えてくださった54期の山田幸作先輩が病に倒れられ、出席されなかったのは残念でした。

嬉しいニュースとしては、清水汪先輩が、昨年の秋の叙勲で「勲二等旭日重光章」を受章なされたことでした。

この会は年一回、有志が集まっております。若い人達も是非参加していただきたいと思ひます。



連絡先は山中博司氏(73期)宛願ひます。公和自動車交通(株)内

(電話) 03-3269-3282

当日の参加者は、岩井平一郎(57期)、杉山英男(58期)、清水汪(59期)、柴田克朗(63期)、菅原馨(66期)、児島英男(67期)、立花雍一(68期)、山中博司(73期)、大河内久(73期)、成岡和美(86期)



# 回想・随感・近況など

## 二十世紀を回顧して

43期 西沢 純三

(旧姓丸山)

### 一、はじめに

昭和三年三月三日卒業の四三期生は明治四十三年(一九一〇年)生れで、今年で米寿を迎えることができた。

私の父は海軍軍医で日露戦争後退官し、先輩の勧めで郷里の長野より静岡へ移り開業した。私は静岡で生れて城内尋常高等小学校から同級生二十一名と共に大正十二年四月二日静岡中学校に入学した。当時は定員二百名で、百九十五名が入学した。四年修了で旧制高校や大学予科へ進学した方々を加えて四三会員は総数百七十六名であった。

明治四十三年の一月にはハレー彗星が地球に大接近し、衝突の危険もあるとも言われた。この彗星は周期が七十六年で昭和六十一年に再会している。

この年の五月には大連事件

が発覚して、幸徳秋水(死刑)、菅野須賀子、大杉栄、荒畑寒村等多数の社会主義者が逮捕され処刑されている。

八月には台風で安倍川の堤防が決壊して大洪水となり、宝台院の本堂も水浸しとなった由である。

日本は日清日露の戦役で東洋の盟主の位置を得たが、欧米各国の東洋侵略、露国の南下政策で大韓帝国の大院君も失脚し、国母閔妃も秘密裏に暴徒により暗殺された。八月二十九日に日韓併合条約が発布されて朝鮮総督府が京城府に設置された。昭和二十年八月十五日日本が連合国に降伏するまで三十五年間隷属されることになった。

また、十一月には白瀬中尉の南極探検隊の開南丸が出帆している。

明治四十三年は色々特異な事件が起きた年であった。

### 二、静岡在学中の出来事

静岡では正月には宝台院境内でのサーカスやカラクリ、

四月の浅間神社大祭や花見、八月の軍神坊の花火大会、秋の招魂社大祭、冬の恵比寿神社の恵比寿講があり賑やかなものであった。

在学中は部活に勉学に楽しい思い出は尽きない。春の運動会、夏の袖師海岸の水泳、夏休みの行事で伊豆の踊り子なみの天城峠越えの耐熱旅行や日本アルプスの白馬登山、富士登山にも参加した。

一年二学期の始業式のあった九月一日午前十一時五十八分に関東大震災がおこり、東京、横浜は焼土と化し湘南から伊豆、箱根方面も大被害を蒙った。

当時は軍事教練も盛んで、小林武少尉と新たに配属された第十九期卒業の久保武少佐が指導されていた。安倍川原での雨天下の露営までした演習、歩兵第三十四連隊への宿泊、大谷射撃場での実弾射撃等が行われたが、銃剣を担いで行軍は苦労であった。

特筆すべきことは大正十五年夏の甲子園での野球部の全国優勝である。上野一福島名バッテリーの大活躍と級友国友、小河、田崎、藤田君や戸

崎、本田、松浦、築地、石川選手チームワークでこの栄冠を獲得することができた。

昭和三年三月無事卒業して、謝恩会が追手町にあった静岡倶楽部で恩師をお招きして行われた。

級友とも別れて夫々の人生に進んだ。父に医科志望を奨められ旧制高校理乙ばかりを受験し、失敗して二浪をしてしまった。最後に藤森良三の考え方教室の冬期講習会へ級友と参加して、始めて入学試験の対策を知った。工科志望で幸いに昭和五年四月、旅順工科大学予科に入学することができた。

### 三、旅順六年

大学予科の勉学は充実しており、部活も盛んで自由闊達な寮生活を送ることができた。

休日には戦跡めぐりで、爾霊山、東鶏冠山、水師營、望台、大案子山堡壘、白玉山などはハイキングコースであった。月に一度位は大連まで行つた。月に一度位は大連まで行つた。月に一度位は大連まで行つた。

満工専、満洲医大との対校戦も盛んであった。

私は弓道部に入部し、また乗馬部に入り軍馬や警察の馬を借用して練習した。

昭和六年九月十八日柳条溝満鉄線爆破事件が勃発し満洲事変へと拡大した。予科二年生だったが当時旅順にあった関東軍司令部に召集されて、三八式銃で実弾を配給されて数日間警備したりした。翌年三月には満洲国が建国し、これが発端となって日華事変―大東亜戦争―太平洋戦争―第二次世界大戦へと拡大していった。

昭和九年一月十五日学部一年のとき、自動車六台に便乗して当時としては画期的な旅順―新京間耐寒旅行をした。

当時は国産車としてはいすゞ号の前身の千代田号六輪トラックのみで、他はシボレー、フォード、インターナショナル大型バスであった。将来の道路計画、自動車の性能調査や日満親善等に貢献することができた旅行であった。

在学中に国際連盟からリットン卿の満洲国視察団の来訪、松岡全権の国際連盟脱退等が起きていた。

学部三年の春、大連港より



天津航路で塘沽<sup>タンカウ</sup>に出て、天津・北京へ堀内清一君と旅行した。日本国拾円紙幣を両替すると九円五十銭になったり、拾壹円になったり、変動して中国の壹円銀貨等を使った。

昭和十一年二・二六事件が発生して次第に軍閥の台頭が進んだ。

卒業旅行は鞍山、奉天、新京、哈爾濱<sup>ハルビン</sup>まで行き、湯崗子<sup>トウガンシ</sup>温泉に一泊して帰旅した。

旅順在学の六年間は人生八十年時代には短い期間ではあるが、私にとっては忘れえぬ貴重な青春の時代である。

私は東芝に就職したが、戦時下では直接軍需品の野砲用信管、二〇耗高射機関砲用薬莢の製造を担当した。月産十萬個に達した時に大東亜戦争が勃発した。

昭和十七年、当時のIBM機は敵国財産として大蔵省の管理下にあったが、私下げられて、東芝が運営することになり、私が担当した。南方や上海から戦利品として搬入されてきたが修理、整備して参謀本部、軍司令部に納入した。これらは暗号解読用として使われていた。軍極秘で一部機

種の国産化を計り、日本銀行、三菱重工業、中島飛行機等に納入した。

昭和二十五年三月まで小向工場、柳町工場を担当していたが、四月一日付でマツカール命令で返還した。これが今の日本IBMである。

戦後復興期は家庭電器や特殊機器を担当したが、やはり事務用機器の開発に従事した。コンピュータ時代の到来で、これらの端末機器を担当していたが、現在の銀行、郵便局、交通機関、デパート、スーパー等で活躍しているのを見ると感慨無量である。

#### 四、中学の先輩方の思い出

自宅が鷹匠町二丁目にあつたので、38期の国塩耕一郎、40期の国塩研二郎（應援歌第一の春静陵の雄叫や……の作詞者）先輩が御近所で兄弟共々お付き合いだった。青木恭太郎先生の義正館も近くで時々兄弟と練習した。

静中・静高百年史上巻にも記載されていて、平成五年五月発行の同窓会報第90号にある「ある静中生の生涯」海軍大佐有泉龍之助先輩（36期）も御近所だった。潜水艦の司

令官として終戦時、大型潜水艦伊四〇一号に搭乗して僚艦四隻と共にパナマ運河爆撃の

為に出撃、帰投命令で八月三十一日横須賀も周辺の地点まで来て、部下に帰投を命じた上、拳銃自殺をされてしまった。誠に武人の鏡である。

24期の大先輩木村昌福少将はアリュエシヤン列島のアツツ島守備隊の玉碎の悲報後、キスカ島に孤立した五千二百余人の守備隊員全員を撤退するに当り、天候悪化に乗じて船団を突入して奇跡的成功を収めることができた。誠に沈着冷静な判断の賜である。

静中の先輩の方々が今度の大战に武勲をたてられた事も特筆に値する。

同級生にも應召された方々も多く、不幸にして戦死者もあり誠に残念である。井鍋秀雄、北川清、野川実、油井義郎の諸君が戦死されている。

幹部候補生として出征された方々も北満や大陸から南方に進出して御苦労をした方々も多い。吾々銃後で働いた者も苦勞の連続であった。現在の平和時代も如何にして維持すべきか国民の双肩にかかっ

ている。

#### 五、静中に在学した兄弟

長兄、次兄、甥の三人と義兄弟二名がお世話になった。

長兄の32期の丸山操は、フィリピン沖海戦の帰途、大和・長門と一緒に金剛の副長であったが、米國潜水艦の魚雷攻撃を受けてキールン沖で沈没してしまった。

昭和三十一年十一月社用で台湾に出張した際、当時はプロペラ機のDC-4型機でこの海域を通って長兄の冥福を祈ることができた。

#### 六、むすび

明治の末期生れで大正時代、昭和時代の波乱万丈期を乗り越えて今日の二十世紀末を迎えたが、級友の多数の方々と

は幽明境を異にしてしまった。四三会の皆様には行事にも是非参加していただきたい。関東同窓会の会合にも出席していただきたい。

平成の年号も既に拾年を閱している。これからはお互いに頑張つて二十一世紀の動向を観たいものである。会員各位の御健勝と同窓会の益々の発展を祈る次第である。

#### 静岡の万葉を歩く

(その十六)

51期 原崎 郁平

三保の松原に二つの万葉歌碑があるが、松の囲いに沿って立っているのが次の歌碑である。

風早の 三保の浦廻（うらみ）を こぐ舟の  
船人よどむ 波立つらしも

詠人しらず

(巻七一三二八)

平成三年三月二十日建立

揮毫者 平野耕雲  
建立者 清水羽ライオンズ  
クラブ

大きさは高さ八十五センチ、幅四十センチのステンレス製の歌碑である。

大意は「早風の吹いている三保の浦から出発した舟人が





騒いでいる。きつと波が立ってきているのだろう」である。

この三保の松原から見る風景は素晴らしい。ここから見る富士山は絶景である。この歌碑によると、沖合で漁業を営む舟が、波に浮き沈んで白い泡の花を咲かせている。海は人間の技術では到底思うようにならない大自然の一つであり、ましてや波の浮沈はどうにもならない。その波立つ海に抱かれるようにして舟は進んで行く。岸から見ると人は壮快な思いであるが、舟人にとっては何とも厄介なものである。今のようにレジャー

化された船に乗っているわけではない。生活のために魚を捕っており、大漁の時は心が弾むが、不漁の時は家族のことを真先に心配する。そうした舟人の心を陸で眺めている人には知るよしもない。風の吹く三保の松原で、当時の舟人の姿に心奪われる一時を持つのも趣がある。

羽衣の松の伝説は「駿河風土記」に紹介されているが、それによると「松の枝にかけた天女が漁夫の妻となるが、

夫の留守をねらって羽衣を取り返して空に上がった」とある。その伝説に「舞は駿河舞」と枕草子にも記述されている。駿河舞を結びつけたのが、世阿弥の謡曲「羽衣」である。

松原近くにある御穂神社は式内社で祭神は大己貴命（おなむちのみこと）と三穂津姫命である。この神社は航海と漁業の神様として地元民から厚い信仰をうけてきた。大己貴命とは大国主命であることからして、出雲系の氏族が三保に渡ってきて住み着いたのだという説がある。毎年二月十五日に簡粥祭という古式の祭りがあつた。

三保の松原は美しい景観であるが、江戸時代にやせた土地を耕す農民の生活は厳しかった。安政の大地震の時、新しく隆起した土地の開墾をめぐつて、三保の百姓たちは領主である御穂神社の神官と争い、駿河の代官所へ越訴した。百姓の代表であつた藤五郎は、後に私文書偽造という罪で捕まり牢内で毒殺された。藤五郎の死を悼んだ百姓たちは稲荷堂を建てたが、これがこの近くにある藤五郎神社である。

## 随 感

59期 富永 利夫

先日、四月十六日に五十九期春の関東同期会があり、今回も出席しました。

これは長年、青木静男君が幹事を引き受けて下され、今後も面倒をみてくれるところとで大変有り難く思っているところ。同期の諸君の元気な明るい顔に接し大変心強く思いました。若い頃でも此のような会の後暫くは静中時代の事を思い出したものでしたが、此の頃七十歳の太台を跨ぐと、懐かしい以上の種々な事が頭に浮かぶものです。

五十九期は全くの戦時中の静中生でした。草薙運動場造成工事への勤労奉仕、そして私は柔道部員でしたので、その草薙運動場で畳なしの芝生の上での他校との試合等々厳しいものでした。四・五年生になった頃は更に戦局も激しくなり、同期生の中でも早期に軍隊に志願入隊した友は、明日の生死もわからぬ前線に戦っていた時代でした。公には「戦争反対」「死ぬのはいやだ」などとは絶対に言えな

い世情でした。終戦後私は知りましたが、同級生の上田元太郎君、滝治平君も戦死されました。

今では校歌の四番は歌わないそうですが、現在の在校生の人達はどうな感想をもっているのでしょうか。

そして終戦。暫くは混乱もありましたが、大変な勢いで経済発展・生活の向上・オリンピックもありました。静中出身者は私を除き、皆秀才揃いで各方面にて活躍され、国会議員・東大その他一流大学の教授・癌治療の権威・大会社の社長、重役等多士済済です。尚、同級生清水汪君は大蔵省局長・環境庁事務次官を勤められ、「勲二等旭日重光章」を受章されました。

昨今は同期の諸君も第一線を退き、悠悠自適の生活に入つて居られる方が多い様です。顧みると、総てに統制厳しかった時代、自由が回復し大いに活躍した時代、そして現在の不況時代と世相の移り変りが走馬灯の如く思い巡らされる今日此の頃です。

優秀な若い後輩の皆様、また、在校生の諸君、是非日本

の二十一世紀を誤ることなく正しく導いて頂きたいものだと思います。居ります。

## 春山の野宿

64期 栗田 行雄

初めて体験したことを書かせてもらおう。四月十四日から静銀時代の同僚で今絵かき生活をしている藤原氏と信州の山を画きに出かけた。

初日は一日中雨で、二日目青空が広がって来た国道41号線飛騨ハイランド附近のペンションの親父さんが、今NTT流業無線中継所へ登れば雨上がりのすこい雲が見られる」と言う。今一時過ぎだから、どこか野宿する処があればいい絵が描きそうだと行くことにする。

中継所に行く林道は砂利道で、急勾配、昨日の暴風雨の雨水が沢となつて道を横切り、落石や流木がやたら散乱していたが、山頂近くの平坦地まで一気にかけあがる。山頂から見た雨上がりの風景はすごかった。雲が早廻しの映像のごとくすごい勢いで変化していく、山も見えたと思つたら雲の中、日がさしたと思つた



ら、陰って青黒くなる。

考えた。信州の景色は雲を上手に画くことが必要だと。

ルネ・マグリットは雲がうまい。夢中で筆を走らせ何とか一枚の水彩画ができた。同僚は油に挑戦している。夕方四時風が出てくる。車の中を片付け安全に泊る準備をする。

夕食は古川町で買った百グラム千三百円の飛騨牛のステーキ、一合五勺の米飯、魚缶とバナナ、残雪にうめて置いた冷たいビールと生酒、藤原氏がバーナーを使って上手に作り上げた。味は最高、この日の夜空も最高であった。満天に零れるばかりの星が実に感動的、七時半寝袋に入る。

背中に敷く断熱材を忘れたのが悪かった。外気が車の鉄板を通し、寝袋も通して体に伝わってくる。十二時過ぎになると一層冷えこむ、膝から足先にかけて寒い。十二時、二時、四時と小便に起き寝返りを何十回したか、心臓カチーテルの晩を思い出す。朝六時とうとう車のエンジンを廻す。あたりが明るくなり無事朝が来た。

店の絵仲間が半ば嘲笑的に

「よくやる」と言ったとか、小生のおだつ食いは死なねば直らないという所か。

## 『医者』の責任・患者の責任

荒井千明氏の新作を読んで

87期 石川 嘉和

荒井千明氏（90期）は新潟大学医学部を卒業、病院勤務後、東大医学部大学院を終了され、現在、日清紡付属診療所の所長、医学博士である。

その荒井氏の新しい著作『医者』の責任・患者の責任（集英社文庫）には二つのテーマがあるように思う。

一つ目は、表題どおり、疾病の原因が医者にある場合と患者にある場合それぞれのケースにおける分析。

二つ目は、人間が人工的に生み出したものやシステムが、人間自身を危機に陥れている現状に対する警告。

一つ目のテーマは、第2節に端的にあらわされている。

「アスピリン喘息」。一定割合の喘息患者がアスピリンなどの鎮痛剤に反応して気管支の強烈な収縮を起こし、場合によっては死に至るといふ症状

諸君！ 聞いてくれ！ 64期 増田政雄

定年を過ぎ、老妻と連れだって、塩原出て湯の里に住まいすることになり、なんと自然が美しい土地だと喜んでいた矢先、とんでもないものに出食わした。

二十四年も昔に、森との境に建てられた産業廃棄物の焼却場が、なんと十倍の規模で、二十四時間運転になるといふ。

その場所は、世間を騒がしている首都機能移転問題で、栃木県知事が、国会議事堂建設予定地として、太鼓判を押して喧伝している下真ん中。

住民説明会の席上で、県産廃協会副会長の社長さんは、「県知事がなんと言おうとも絶対造る。裁判で争ってでも造る。」と大見えを切る有様。

いったい、この国は今、どうなつてしまつていくのか。二十一世紀のこの国は、ほんとに大丈夫なのか。

がこの節の主題である。「アスピリン喘息」の可能性を念頭に置かず薬を出した医師に責任があるのか、既往症として「アスピリン喘息」のことを医師に告知しなかった患者が悪いのか。

この節の主人公「板前の良作」が風邪薬を近所の医者に

日本人の男性の精子が、急激に減少しているというではないですか。

若いお母さんのオッパイに、ダイオキシンの蓄積しているというではないですか。溢れ出る産業廃棄物が、山野を覆い、処分場から出る煙が、大気を冒し、川も海も環境ホルモンに汚染されて、魚も貝も危険になつてしまつたというのに。

静岡県は、焼津に生まれ、三度三度、魚を食らつて育つてきたこの私にとって、残酷な世紀末になつてしまつたことか。

昔、漢文の授業で習つたことがある。「天に口無し。民をして言わしむ。」と。

幸い、まだ、口だけは達者なうちに、老骨に鞭打つて、叫びを上げたい。

「諸君！ 聞いてくれ！」

明日では、遅い。

今、行動を起こさないで、取り返しのつかないことになる。」と。

（一九九八年五月）

烈な気管支の収縮症状を起こし、し気を失うまでの描写は、まるで読者が呼吸困難に陥つたかのような気分させる。

第6節では、出血傾向が促進され病状が悪化したのは、医師の処方した抗生物質が原因ではないかと、本能的に悟つ

たらしい高齢の患者が、頑強に転院を希望して危機を脱す

る。ここでも、第2節とは別の観点だが、第一のテーマである「責任」に対する考えが示されているようだ。

自然の一部たる人間と、その人間の作り出した人工的な物質やシステム。後者が前者に与える、様々な危機の様相が語られるのが、二つ目のテーマ。私にはこのテーマが特に



興味深く感じられた。

自然と人間の出合うところ  
に起こる危機の例として大地震がある。想像してみると、山や野で生きる動物を震度七相当の地震が襲ったとしても、恐らく大した被害はでないであらうと思う。ところが、野原だったところに都市が築かれると、その中で生活している人間に、地震は大きな被害をもたらす。地震被害というのは結局、人間の造った構築物が地面の揺れに反応して起こる現象といってもよい。つまり自分の造り出したものに自分の生命が脅かされる。一種の自縄自縛というべき状態である。

第5節では人間の体の中に大地震が襲う。自律神経系というものは、人間の体の中で自然を保つシステムであるといつてもよいと思うが、この自律神経系が制御不能の暴走を始める。それがこの節の主題の「過換気症候群」。暴走のきっかけは、精神的なストレスである。これがある閾値を越えると、過呼吸から脳の血管に収縮が起こり自律神経が定常状態を保てなくなり、

悪循環で意識障害を引き起こす。

この「過換気症候群」の名前も、もちろんその症状も、この書物で初めて知ったのだが、すぐれて現代的な問題であり、ここに本書の第二のテーマが含まれていると思う。

第7節もまた第二のテーマ、人間の生み出したものが人間自身を苦しめるケースが主題である。ここでは、「シックハウス症候群」や「化学物質過敏症」という一種のアレルギー症状がとりあげられる。原因は必ずしも特定できていない新しい概念だが、化学物質がアレルギーの原因になっている。あるいは心因性の原因が、人体の恒常性維持を阻害しアレルギー症状につながっている。家族がシックハウスの主人公は、躊躇した末、転居をする。転居先で自家菜園を始め、その結果精神的にも肉体的にも、自然との結びつきを回復し、家族の症状も日寛ましく改善される。

その他各節に亘り、薬の選択あるいは使用法が、重大な疾患に結びつくケースが触れ

られている。

以上、二つのテーマに沿ってこの本の概要をなぞってみた。読み通してみると、「医療」という切口で「現代」が浮き彫りになってくる。重い内容をわかりやすく描き出している、優れたエッセーだと思う。

## 関東同窓会の益々の発展をめざして……

同窓会員の親睦をはかるため、幹事のみなさんの格別のご尽力に心から感謝申しあげます。

混沌たる社会情勢、多忙な毎日と思いますが、幹事は特に同期生へより一層の呼び掛けをしていただきたく、また、会員諸兄姉は幹事へのお力添えを熱望いたします。

とくに会員数も多い75期、113期は、年会費納入など、期によって大きな差があります。ヤングパワーに期待すること大、よろしくご協力ください。

建設的なご意見や参与を、そしてひとりでも多くの年会費の納入など、ぜひ積極的なご協力を！

## Ⅱ 各期幹事一覧Ⅱ

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期(83・88・91・98・99・101)は至急選出してご連絡を！

- |                               |                               |                               |                               |                               |                               |
|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 69 : 宮崎吉英・山本龍男                | 71 : 児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直      | 73 : 杉山 光・中西英一・山中博司・山梨由記      | 75 : 佐藤鐘司・藤原経史                | 77 : 酒井孝太郎・鈴木 浩               | 79 : 上田尚亮                     |
| 70 : 味岡 宏・大高源之丞・大長 智          | 72 : 桜井亮介・深田 均                | 74 : 佐藤鐘司・藤原経史                | 76 : 酒井孝太郎・鈴木 浩               | 78 : 鈴木藤男                     | 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                |
| 71 : 児玉文男・後藤弘枝・海野幸雄・篠原 直      | 73 : 杉山 光・中西英一・山中博司・山梨由記      | 75 : 後藤正義                     | 77 : 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚      | 79 : 上田尚亮                     | 81 : 鈴木素明・萩原英昭                |
| 72 : 桜井亮介・深田 均                | 74 : 佐藤鐘司・藤原経史                | 76 : 酒井孝太郎・鈴木 浩               | 78 : 鈴木藤男                     | 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                | 82 : 杉本三郎・堀内淳司                |
| 73 : 杉山 光・中西英一・山中博司・山梨由記      | 75 : 後藤正義                     | 77 : 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚      | 79 : 上田尚亮                     | 81 : 鈴木素明・萩原英昭                | 83 : 橋原明生・田辺 哲                |
| 74 : 佐藤鐘司・藤原経史                | 76 : 酒井孝太郎・鈴木 浩               | 78 : 鈴木藤男                     | 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                | 82 : 杉本三郎・堀内淳司                | 84 : 橋原明生・田辺 哲                |
| 75 : 後藤正義                     | 77 : 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚      | 79 : 上田尚亮                     | 81 : 鈴木素明・萩原英昭                | 83 : 橋原明生・田辺 哲                | 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          |
| 76 : 酒井孝太郎・鈴木 浩               | 78 : 鈴木藤男                     | 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                | 82 : 杉本三郎・堀内淳司                | 84 : 橋原明生・田辺 哲                | 86 : 成岡和美・井出慎吾                |
| 77 : 加藤重信・野方重人・三浦位通・清水雅尚      | 79 : 上田尚亮                     | 81 : 鈴木素明・萩原英昭                | 83 : 橋原明生・田辺 哲                | 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          | 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 |
| 78 : 鈴木藤男                     | 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                | 82 : 杉本三郎・堀内淳司                | 84 : 橋原明生・田辺 哲                | 86 : 成岡和美・井出慎吾                | 88 : 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生     |
| 80 : 野崎幸彦・諸星勝保                | 82 : 杉本三郎・堀内淳司                | 83 : 橋原明生・田辺 哲                | 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          | 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 | 89 : 鳥巢 修                     |
| 81 : 鈴木素明・萩原英昭                | 83 : 橋原明生・田辺 哲                | 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          | 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 | 89 : 鳥巢 修                     | 90 : 荒井千明・小林一郎                |
| 82 : 杉本三郎・堀内淳司                | 84 : 橋原明生・田辺 哲                | 86 : 成岡和美・井出慎吾                | 88 : 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生     | 90 : 荒井千明・小林一郎                | 92 : 清水 篤                     |
| 83 : 橋原明生・田辺 哲                | 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          | 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 | 89 : 鳥巢 修                     | 92 : 清水 篤                     | 93 : 岡村幸彦・望月 朗                |
| 84 : 橋原明生・田辺 哲                | 86 : 成岡和美・井出慎吾                | 88 : 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生     | 90 : 荒井千明・小林一郎                | 93 : 岡村幸彦・望月 朗                | 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           |
| 85 : 池田幸司・増井喜一郎・深津俊郎          | 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 | 89 : 鳥巢 修                     | 92 : 清水 篤                     | 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           | 96 : 奥田規之・細沢 優                |
| 86 : 成岡和美・井出慎吾                | 88 : 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生     | 90 : 荒井千明・小林一郎                | 93 : 岡村幸彦・望月 朗                | 96 : 奥田規之・細沢 優                | 97 : 藤森 尚                     |
| 87 : 橋村芳一・平岩正史・藁科名雄・沢井良輔・石川嘉和 | 89 : 鳥巢 修                     | 92 : 清水 篤                     | 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           | 97 : 藤森 尚                     | 100 : 船橋 智                    |
| 88 : 高橋俊見・荒谷じつ子・大川庄治・雨宮明生     | 90 : 荒井千明・小林一郎                | 93 : 岡村幸彦・望月 朗                | 96 : 奥田規之・細沢 優                | 100 : 船橋 智                    | 103 : 相坂摂治                    |
| 89 : 鳥巢 修                     | 92 : 清水 篤                     | 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           | 97 : 藤森 尚                     | 103 : 相坂摂治                    |                               |
| 90 : 荒井千明・小林一郎                | 93 : 岡村幸彦・望月 朗                | 96 : 奥田規之・細沢 優                |                               |                               |                               |
| 92 : 清水 篤                     | 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           |                               |                               |                               |                               |
| 93 : 岡村幸彦・望月 朗                |                               |                               |                               |                               |                               |
| 94 : 松野敦子・95 : 新村昌弘           |                               |                               |                               |                               |                               |
| 96 : 奥田規之・細沢 優                |                               |                               |                               |                               |                               |
| 97 : 藤森 尚                     |                               |                               |                               |                               |                               |
| 100 : 船橋 智                    |                               |                               |                               |                               |                               |
| 103 : 相坂摂治                    |                               |                               |                               |                               |                               |



## 静岡だより

## 静岡の「徳川慶喜さん」

いま、テレビの「徳川慶喜」が評判だが、御家人の血を引いた母の影響からか「よしのぶ」にはどうも馴染めない。「けいきさん」でなくてはと思う。それもアクセントは、「景気」ではなくお菓子の「ケイキ」の方だとかく信じている。

ご他聞にもれずこのところ静岡でも、あやかり、が賑やかだ。いささか泥縄的な感じがしないでもないが……。しかしその中には楽しいものの、役立つものが無いわけではない。

まず、その一は「慶喜弁当」。

けいきさんが当時好んで食べた献立を研究し、地元の特産品を加えて作ったもので、静岡市内の料理店など十四店で販売している。店内で食べるものになっている（要予約）が、東海軒だけは静岡駅の売店で買える（八四〇円）。これ、お勧め品。物珍しさもあるかもしれないが、お味は悪くない。

その二は、「けいきさんガイドマップ」やテレホンカードなどのグッズの売れ行きも好調、そして勉強会なども各地で活発なことなど。

こうしたことをやっている中心の一つに、「徳川慶喜と明治の静岡」推進協議会（☎42010857 静岡市御幸町4 電ビル2F 電話・FAX 054125519667）がある。

また「けいきさんの会」ホームページも利用できる。

http://www.wbs.or.jp/cm/keiki/

（67期 光木 徹）

## 静岡野球部情報

今春、静岡野球部に二つの動きがあった。

まず、昭和五三年来約二十年にわたり、河瀬卓二会長を中心に、後援活動をして頂いた59期のメンバーに代って、69期田宮俊作氏（㈱タミヤ社長）が会長に就任、同期を中核とした、新後援会がスタートした。

次に、八木道政監督の後任に、磐田南高から、鈴木祥充氏が新しく指揮をとることになった。母校磐田南高を中堅クラスのチームから、春秋の県大会出場常連校のレベルまで押し上げた、その手腕には定評がある。これからの指導に期待しよう。

◇ ◇ ◇

昨年夏の大会準決勝の悪夢のような敗退から、どうも戦績は芳しくない。今春の中部大会も、県大

会出場さえ出来ず、夏まで公式戦なしの体たらくである。

本校 六一 島田工

本校 一〇 静岡東

本校 五一八 清水商

本校 四一二 静岡西

対静岡商定期戦でも、チームのまとまりがつかないままの状態であつた。安打数、長打では圧倒したものの、適時打がでず、延長負けである。

指導者の交代が、部員たちに与えた動揺もあるだろう。一日も早い立ち直りを願いたい。

◇ ◇ ◇

ミーティングと称する、長々と時間の無駄使いである、精神面のみを強要する悪弊から、「考える野球」へ脱皮する、そんな時機に、高校野球は来ているようだ。

考える素材はコトバである。野球の動作を、身体構造・物理原則に裏付けられた理論で解説し、それらを納得できる方法で提供することが必要になってくる。

その方法で、自分の欠点を発見し、それを課題として取り組む。たとえ一人になっても、考えながらの練習も可能であるはずだ。

それには恰好のテキストがある。村上豊著「科学する野球」全八巻（ベースボール・マガジン社刊）

新任の鈴木監督にすでに贈つてある。私自身、その索引を製作中だ。野球で必要とする力は、単に筋

肉の収縮のみによって求められるものではない。野球は運動だから、慣性モーメントを小さくする、テコの働きを大きくする、ムチの効果を大きくする、捻りと捻り戻しの働きを利用する、といった動作から物理的な力を引き出すことによって求められる。

そして、「野球はカカトから捻り投法」「空手打法」「四つ足走法」などを案出する。さらに、「スイングのタメとは」「中心衝突と偏心衝突」「体の捻りと回転の違い」「レベルスイングとは何に對してレベルか」などに誰にでも納得できる理論的説明が付けられている。良い動作と悪い動作を豊富なイラストを使って、眼から直感的に合理的な動作を覚えてもらうよう配慮もしてある。

自分で「考える野球」を行う原点になりうるテキストだと思う。是非とも、現場で活用し、部員たちに野球の動作を合理的に考える契機を与えて欲しいものである。

（67期 法月郁雄）

## 静岡・静岡野球定期戦 40回記念大会にファン五千人

## ▽定期戦

静岡

101 0000 3100 06  
100 0002 3001 7

静岡商

（延長10回）

## ▽OB戦

静岡高OB 0002220 6

静岡商OB 1002002 5

伝統の静岡・静岡野球定期戦の第四十回記念大会が四月二十九日、静岡市の静岡草薙球場で開かれた。両校生徒やOB、高校野球ファンら約五千人が見守る中、両チームが記念大会にふさわしい逆転また逆転の接戦を繰り広げた末、静岡が延長十回に7-6でサヨナラ勝ちした。対戦成績は静岡の十六勝二十四敗となった。

静岡は3-5で迎えた七回裏、四球やボークで出たランナーを四番・竹下、五番・佐藤の適時打で返して逆転し、6-5とした。八回表には粘る静岡に同点とされて延長に突入したが、十回に六番・宮原の中前打を足掛かりにバスポールと七番・川本の犠打で一点をもぎ取り、昨年の雪辱を果たした。静岡は三番・寺田が本塁打を放つなど中軸の活躍で中盤まで優位に試合を進めたが、守備の乱れもあって勝利を逃した。

定期戦に先立ち記念大会の一環として行われたOB戦では、甲子園を沸かせた往年の名選手が出場し来場者を楽しませた。試合は6-5で静岡OBが勝った。

（記事：静岡新聞社提供）



## 追 悼

## 庵原悌次君を悼む

54期 平林 一郎

庵原君、永年の友人として君にお別れの言葉を述べる。君が鬼籍に入られたのは二月十六日、誠に悲しい。

序説を許し給え。僕がクラスに入ったのは一年二学期、転校生としてである。当時は未だ丹那トンネルは開通していなかった。静岡の街は古い町並が残る一方、モダンな市役所の建物に目を見張った美事な街であった。

さて登校一番、僕を驚かせたのは正に君の一言「帽子を見せろ。何だ、これは人力車の帽子でないか」と。実は前の在籍校府立四中の帽子は縁が角張り、皆の丸帽とや異っていた。忽ち頂いたのが「人力」なる名誉ある称号であった。僕が車夫なら君は客、遂に一生かけて到着したのが君の殯の地、そこは僕の新規開業から十軒も離れていない。君は極めて強壮に見えたが何故にこんな病になったのだ。

勿論凡医の僕には分る筈がない。クラスには佐野圭司、中村武、居初良雄の錚々たる国手が居るではないか。一昨年春（平成八年）の突然の君の下血のことは僕の日記に確かにある。直ちに帝京大で受けた大腸ポリプの手術及び其の後の周到な検査にもパスして、昨年五月には完全治癒を



自ら宣言したではないか。それが一ヶ月後には胃癌の手術を受けて、余命半年というのは訳が分らない。癌の発生は隠密であるという、若し堂々とやって来るものであれば、

又まして医学知識を備えた者には全く脅威にもならない筈である。僕の壮健窮りない比較話だが医学部同期生の死亡率が50%以上に及ぶに拘らず、旧制高校同期生では戦死者を含めても20%に達しない。

君の苦勞して編集した同人誌「風貌」に拠って生立ちを

辿ると、君は四男に生れ中学時代は家の印刷業も極めて隆盛、業界で東海一を誇り、多数の従業員を抱えていたが肉親の早逝、戦死、事業上の御苦勞から安心立命を求めて日蓮宗に帰依し信仰を益々深められていた父君を貴君は日宙上人と諡した。

時恰も二・二六事件の勃発は二年生の時であった。それが陸軍を中心としたファッショの来襲の警報であることは知る由もなかった。軍部の専横を抑え得ると期待されたのが近衛内閣で、忽ちその期待が裏切られ、その後を襲ったのが東条内閣（昭和16・10月）である。恰も我々の卒業を俟つ如く東条内閣は真珠湾攻撃をした。

君はその著に学徒召集で航空隊で終戦を迎え、危くソ連軍にシベリアに連れて行かれるところを要領よく逃げ回ったとあるが、シベリア抑留がいざ伝えられた時の将兵の劇しい心の動揺と葛藤、衆議決した万山籠城、一縷の望みを国民党軍の接触に託し、且つ満人の暴発を怖れる暗闇の逃避行、勿論武装解除部隊に

は兵器も食糧もない、然も漸く到着するや八路軍の挾撃にあい山を駆け落ち九死に一生を得るが、敗残兵の立戻った先は前の鞍山市であった。やつと息をついた残留民間人の宿舍提供も時間が経つに募る問題は敗残兵の自首を促し、隠匿者に連座を告げる布告状にあった。「風貌」の君の筆は実に美事に二者択一の土壇場の悲劇を描いている。

君は変装して身一つで遼陽に逃走する、漸く故知を頼って紡績工場に就職、安泰の日々を忽ち恐懼に陥れたのは八路軍の本隊だった。それは満人労働者虐待の廉で人民裁判と会社幹部の粛清と称する理不尽極まりない処刑である。勿論その中には君の恩人もいた筈だ。戦争は余りにも惨い。

八路軍の容赦なき残酷さ、ボルボトの異常な思想と理念、或は浅間山荘事件に、近くは凶悪なオウム教の犯罪の根底にはいまなお蔓延しつつある人間の残忍さといった妖怪が潜む。敢て妖怪とは理性性では掴み得ないからである。

君の生還、御目出度うとも御苦勞様とも言いたいがもう

遅い。戦後多くの戦記が出版されているが、悉く敗戦記である。然も「戦後」という用語そのものが敗戦国特異な言葉だとさえない。「風貌」に載った君の作品、僕は初めてである。恐らく戦場にも行かなかった僕を遠慮したのでらう。だから「諡して日宙上人」「曠野のうた」の諸編は僕には君の遺作になった。

いざ花もて埋めよ  
君がゆくみち

庵原さんを偲んで

60期 上杉 重吉

2月17日、私は月いちの山歩き（その時は景信山・陣馬山）のため早朝に家を出ましたが、その留守に庵原さん逝去の報が届いたのでした。かつて関東支部の有志で何回かハイキングをした時は、いつもいっしょだったことを思い出します。

思えば庵原さんは、奥野副会長などとともに関東支部創立（昭和50年）以来、同窓会のために終始変ることなく尽力されました。

54期の幹事として、また家





業とはいえ会報の編集・印刷を23年の長きにわたり誠実に勤めてくださいました。最近の15年余は年2回の発行ごとに庵原さんと苦楽をともにできたことを幸せに思うと同時に感謝の念を禁じ得ません。東京でも珍らしくなった、一字一字活字を拾い、版を組む印刷—その融通のきかなさが希少価値とともに根強いファンも多かったと言われる活版印刷—その作業を黙々と続けられる姿は、正に信心深い仏教信徒そのものと感じ入ったものでした。昨年の暮までは会報44号を「生きがいだから」「最後の仕事だから」と苦痛をこらえて、がんばってくださいました。

これからは、会員皆の力で同窓会を益々発展させご恩にむくいたいと思います。謹んでご冥福をお祈りいたします。

## こ え

この欄は「もう一つの総会」——気軽に筆を執り、送ってください。

51 伊藤 漢吉

郷里の龍洋町に僅かに残った土地に、百日紅、醉芙蓉等を植えて生長を楽しみにしています。今年の春植えた木が一年で背よりも高くなり、朝に白い花が咲いて夕に赤くなって居ます。それに引きかえ我が身はますますボケ老人になってきました。

58 伊東 卓爾

会報楽しく読ませていただいたいます。現在通院生活ですが、すこし元気になったら、「静岡の万葉を歩く」をたどってみたいと思っています。四月の浅間神社の桜もなつかしいですね。よろしく。

58 熊倉 均

(きみよ夫人より)  
主人は、平成九年一月一日他界致しました。永い間お世話になりました事を心より感謝申し上げます。御会のご発展をお祈り致します。

60 時田 正康

昨年の海外旅行はエジプトでしたが、11月27日出発ですべて準備が終ったとき、例のハトシエプスト女王葬祭殿の事件が発生してオ

ジャンになりました。今年は6月に長江の三峡下りを予定しています。

68 吉崎 英輔

三菱商事、続いて三菱液化ガスを退職し、現在静岡に本社のある(株)トーカーの監査役とその関連会社の米喜バルブ(株)の顧問をしています。勤務は東京支社です。

70 村松 勝治

組織の強さ弱さは企業も同窓会も同じではないかと感じます。ある年齢に達したらその意義や重要性が急速にわかってくるような気がします。その認識が増幅されるのは一つにはこの会報や年次総会のおかげでしょうか。

(東栄電機(株))

74 木村 敦

長らく脳梗塞で入院中でしたが回復して社会復帰しました。

(本田技研(株)国際交通安全学会顧問)

76 鈴木 浩

まったく同窓会の行事に関わらず申し訳なく思っております。定年になってもなれば余裕ができるからなんて、考えております。

(いすゞ自動車)

93 岡村 幸彦

今度、会報に広告をのせさせていただきます。

(アイセイ薬局代表取締役)

## 第51回「江の島会」総会開催のお知らせ

昨年は第50回の記念総会が無事盛大に開催されましたことを心から感謝申し上げます。

お蔭様で回を重ねる毎に特に若い期の岳南健児女に会の楽しい雰囲気好評で、多数の同窓の方から問い合わせがあり参加を希望されるようになりました。

今年も下記の通り開催しますの

で初参加の方を含め多数のご参加をお待ちしております。

106 齋藤 光美

卒業して八年、関東地区同窓会が開かれていることを、最近聞きしました。ぜひ参加したいと思ひますのでよろしく。

(海上自衛隊プログラム業務隊運用科)

109 仲村 科子

住所が変わりました。名簿の訂正をお願いします。比較的、時間に余裕のある仕事をしているので、何か手伝えることがあったら、手伝いたいと思っています。平日19時以降ならばOK。

(衆議院議員野中広務事務所)

93期の岡村幸彦さんへ——

次の46号から広告の掲載をお願いしたいと思いますのでよろしく。

一、九月六日(日) 正午開会

一、江の島恵比寿屋旅館

一、連絡先 江の島会事務局

59期 奥沢徹(勝山塗装内)

電話 〇四五-301-5545

FAX 〇四五-301-5547

なお、詳細は例年通り八月下旬頃ご案内を発送しますが、初参加の方は期別、住所、氏名、電話番号を事務局迄お知らせ下さい。

## ◎事務局より

関東同窓会の円滑な運営のため平成10年度年会費(三千元)の納入をよろしく願ひいたします。

同封の振込用紙で、ぜひぜひ協力ください。なお用紙は会報の毎号に年会費の納入済み、未納にかかわらず同封しておりますことご諒承ください。

宛先不明のため、会報返送が毎月多数あります。住所変更の場合至急ご一報のほど願ひあげます。

◎事務局へのご連絡は…

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

山中ビル タカラ歯科医院内

静中・静岡関東同窓会

薬科名雄(87期)

(電話) 〇三-三七九二-三五八〇

(午後2時~6時の間)



## 平成九年度 会費拠出者

平成9年4月1日～10年3月31日

(順不同・敬称略・寄付金を含む)  
年会費三千円拠出の方は、  
数字の記載はありません。

- 42 宮澤次郎、吉田幸一(6)、岩波信平(10)、井出多米夫、中嶋 敏
- 43 北里良夫、長戸寛美、倉澤栄吉、望月孟夫、三好由三郎、三宅静夫
- 44 高橋真一、白井 茂(5)
- 45 下川 猛、蝦原一郎、田附敏三
- 46 内山 規、鼠入秀夫(6)、山本幹夫、丸杉孝之助、杉本義明、八木鍾司
- 47 田中達夫、杉山栄一(2)
- 48 近藤希賢、大橋廣世、原崎進一(6)、河村 祥、岩崎鑑一、黒水高典、伊藤重久、青木香菅沼 榮、山村忠平(6)、杉山宏行、長井 廣、嶋三四郎、大津英輔、直原敏衛
- 49 丸尾文治、住 太郎(6)、浅賀博澄、田中 誠、峰田静夫、大庭富士夫、梶原忠治
- 50 田中賢一、森 弘、原崎郁平(6)、永井五一郎、直原澄衛、林 盛次、鈴木孝雄、伊藤濱吉、佐伯正剛、渡辺 功
- 51 川島喜八郎(6)、田中貞司(6)、小川善次郎、綾部立一、茂呂茂樹、新美 弘、岩本良雄(2)、広川 聡、大草知久、西田豊馬
- 52 岡田芳男(2)、香林竹男、桜井昌也(6)、野崎昌輔(8)、曾根信一(5)、志田寿一、小野一夫、稲畑 勝、木宮高彦(6)、三枝正裕(5)、徳永悠久、宗像 醇
- 53 安東哲夫、高井 昂、佐野資郎(6)、磯野 修(5)、大畑忠夫、居初良雄(6)、渡辺治郎、片桐嬉夫、平林一郎、柴崎芳三、大藤直久
- 54 木村康宏(2)、山下武男、中野治良、長澤栄一、法月重雄、小沢忠樹、日比光明、松井保治、相川富士雄、戸塚正五、宗 四朗、中田吉信、山本孫一
- 55 伊東卓爾、青木良文、石塚由雄(6)、松田光彦(6)、奥野進(6)、横森 桂、原田昇左、鈴木源一、大野田佐吉
- 56 酒井 博(11)、坂田秀雄、久保田誠三、影島利邦(9)、是永久次、山中孝二(6)、杉山正友、島根光明(6)、菅 稔(6)、加藤健三(8)、月見里礼次郎、藤巻重男、鳥居義彦
- 57 望月恵一(6)、原本睦雄(6)、末広照男(6)、須山静夫(6)、世古眞臣、鈴木榮三、奥野 広、伊藤健三(5)、熊倉きみよ、島村 悟、伊東卓爾
- 58 青山 勇(6)、高橋 裕、小澤武彦(2)、田澤義彦、奥沢 徹、小花敏郎、清水 汪、増田真一、内田武二、大塚 恒(5)、加納久夫、狩野和男、長谷川邦三、水野哲也、小澤将男(6)、富永利夫(5)、菅原 操、伊藤光雄、勝呂 清、川田 昭(6)、大村和夫、近藤陽三、内田武男、福地強、瀬端一男
- 59 渡辺 博、逸見昭三(6)、益田清聞、大石隆一、辻村輝彦、笠間達男(6)、内藤敏夫、新間昌輝(6)、時田正康(6)、井田 淳(6)、河合睦郎、堤 崇、黒田武之助、萩原壮太郎、原田龍二、鈴木光男、鈴木明、上杉重吉、原善三郎、君島康弘、野沢栄司、山路敬三(6)、齊木 学
- 60 大石次男、清水照彦、伊藤久、君島敏男、花見 久、奥野泰助、八木貞一、片桐 篤
- 61 青木邦彦(4)、大村富士男、黒川泰三、宇都宮道和、萩原将弘、西田駿之介、相羽達雄、稲森慎二、高山秀男、濱田茂明、芹沢博樹、諸田 實、佐野 剛、仲野辰男、坪田昭三、相馬 孝
- 62 入江喜久夫、川手生已也(5)、吉川隆士、三枝弘之、高田桂造
- 63 名波倉四郎、馬場泰男(7)、神谷武男、鈴木明郎(5)、田中 耿、遠藤 栄、益頭尚文(2)、松下一男(2)、永田進一(2)、村上喜代二(2)、浅井幹夫(2)、長谷川直和(2)、佐野 旭(2)、長島 健(2)、塚本光彦(2)、渡辺素夫(2)、山本和彦(2)、八木綱三(2)、岩本吉雄(2)、仲野 実(2)、望月康逸(2)、渡辺宏一(2)、柳田 堯(2)、栗田行雄(2)、吉井駿亮(2)、桜井富士男(2)、杉本 哲(2)、加藤 満(2)、蛭川博之、増田政雄、新井 彰、大石和夫、酒井謙弥、狩野達彦、中村政子
- 64 森山秀夫、小嶋清司、大村敏夫、安池智策、河守輝雄、藤原隆二、川合 勉、大坪信之、藤原朝則、湯浅 謙、西田尚史、増井和夫、佐野辰美、大塚修弘、関本和男、石川創一、浜田裕志、杉本幸貞、村松武司、中村伸吾、瀬尾 章、村越立彦、安田正弥、内田幸雄、山下裕一、加藤 昭、三原 載、小林五郎、山梨裕司、久保泰夫、曾根錦吾、佐野栄一、原野谷朋司(2)、田中俊男
- 65 梶原由三、吉野 亨、高山彰夫、小杉謙一、成岡英彦、塩澤 満、遠藤和彦、向井久和、稲葉昌弘、小沢皎二(2)、丸山英久、矢部 隆、大石儋而、小杉 弘、増田安国、牧田仁男、岡村英二郎、山岡 進、手塚重明、朝倉 勇、戸塚惣雄、岩崎為明、美濃一朗、加藤友行、児島英男、福原亨一、鳥居滋夫
- 66 杉山忠男、藤波真五(6)、植田勇天(6)、望月芳朗(6)、秋山和也(6)、大川庄治、仁科 将(1)、雨宮明生(2)、塚本浩司、瀬堂川徹、酒井定子、吉崎英輔(6)、河口 浩(6)、宇田貞子(6)、高橋俊見、岩瀬順郎、小林功典、白鳥健次、松下司郎、市原 卓、江崎善三郎、田中英夫、佐怒賀洋平、稲葉 清、鈴木国功
- 67 下山 茂、松島玲子、田川邦



- 73 子、原野谷和弘、原田淑子、植村守代、神谷東洋、神谷貞子、狩野昌夫(2)
- 72 佐々木政三(6)、齊藤晴彦、石山 博、宮代省一、大高原之丞(6)、中村龍二(6)、関哲男、白石通子、田形隆一(9)、柳沢伯夫(9)、川端正良、牧野 甫、渡辺勝美、坂本 康(2)、大場良臣、渥美哲哉(10)、村松勝治、井田勝久、鈴木明次
- 71 奥村鋭一郎(6)、大井康生、加藤祐史(6)、本間啓司、山崎恭弘、実石欣哉(6)、川上貫三(6)、青木庄三郎、児玉文男、村松緩啓、小池泰光、伊藤 勝(18)、富野 壽(6)、片山嘉博、小池啓治(6)、山本弘美(2)、橋爪尚也、今村清彦、安藤龍男、宮崎次郎、石川 宏、酒井 力、梅原孝允、山田卓夫、三上祐一、西野 章
- 70 本昇平(6)、後藤 宏、中西英一、石川久男、石川征四郎(5)、深澤靖男、鈴木千秋、外山眞佐樹、大木 茂(6)、君島武男、塩坂雅司(6)、渡辺雅俊、加藤 甫
- 74 花本栄二(2)、佐藤鐘司、塚本 豊、中村牧子、萩原茂春、近藤豊實、木村 敦(5)、山脇伊久男(6)、稲葉一字、角谷治子(6)、西山 肇(6)、田中佐和子(6)、山口雅子、水上雅雄、桑原伊玖子、桑原英明、熊谷敦子、中西恭二、西村泰一
- 76 尾光彦
- 75 篠原 興(6)、川瀬光彦、笹大石直行(2)、池田哲郎(10)、富田駿介、伊藤哲治(6)、大木浪江(10)、国保能彦、鈴木浩(2)
- 77 遠又英祐、森 正毅、石田久二、柴田哲男、三浦位通(6)、大岩 蓮(6)、福知 治、石間啓一(6)、武田恒章、仁科光司、小池淳夫、伊藤達雄(6)、松井義之、石山健一、菅 弘彦、柳川信子
- 78 島田智江、君島正夫
- 79 増田安久(6)、吉田伸一郎(5)、小林日出雄(6)、松浦正郎、多田佳忠、入谷健彦
- 80 大木伸昭、鎌田晴美、吉田和悦、岩崎行男
- 81 浅原 泉、芝山公彦、鈴木真男、福世一己(2)
- 82 北 雄二、吉田昌史、鈴木良彦、鈴木としえ、多賀谷秀保
- 83 浅井隆善(6)、藤原慎二(6)、八十島慈(10)、大石高志、勝又徳明
- 84 小沢治夫(10)、野口洋一(2)、塩谷 立(6)、水越伸昭、鈴木敏正、吉野文江、浅川祥子、平井みや子、戸塚康男、柳沢正芳、成田忠理子、大隅忠子
- 85 高橋成彰(6)、水田 悟(6)、牧野英敏、志村 顕、遠藤岳陽、山田 豊
- 87 塩川治郎(6)、石渡洋行、平岩正史、石神葉子、水上浩司、安倍敏陽(6)、胸組光明
- 88 塩沢 潤
- 89 伊藤靖郎
- 90 スミス京子、川島雅行、宮澤玲子、荒井千明(6)、荒井郁子(6)、栗山伸一、見城宗忠
- 91 吉岡尚代、清 嘉枝
- 92 天川由美
- 93 清水 篤
- 94 岡村幸彦(6)
- 95 大石修一、小山田潔、松野敦子、小池一徳
- 96 永江総宜(6)
- 97 上田 巖(2)
- 98 堀籠浩一(2)、望月洋伸、高梨直子(6)、美斉津雅子
- 100 五十嵐寧(6)、鈴木洋一郎、佐野正幸
- 101 佐藤弘幸(8)
- 102 佐藤友男
- 107 小泉輝武、神田 理
- 108 鷲巣祐介、杉山浩二
- 109 宮城島一彦(1)、川上 勤
- 111 村松 亮、児玉良介、浅井信行(6)
- 113 村松真理、青木利光、吉田幸弘(6)、上田裕芳
- 平成八年度の会費拠出者のうち左記の方々の記載もれ(会報43号)がありましたこと、心からお詫び申しあげます。
- 44 高橋真一、49 山村忠平(2)
- 51 佐伯正剛(2)、55 中野治良
- 64 新井 彰(2)、68 鈴木満郎
- 71 佐藤利治、72 石川正明
- 77 杉山 武、84 塩谷 立
- 84 竹下晴久、102 佐藤友男
- 「会報」編集子より
- 毎号バラエティーに富んだ原稿を寄せてくださる方々に、心から感謝申しあげます。
- 同窓会員の絆をより強くとの願いをこめて、さらにより充実した誌面になるよう、一層のご協力をお願いいたします。
- 各期幹事諸兄姉のご尽力で同年会を開催し、その報告を会報にどしどし寄稿ください。
- 原稿尊重を建て前としておりますが、加筆や訂正させていただく場合もあります。その点ご了承ください。
- 提供の写真について、返却の必要があるかどうか書き添えていただければ幸いです。
- 原稿依頼や掲載広告について、候補と思われる方を事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。
- (U)
- 政治・経済・社会各状況とも苦難の日々が続いておりますが、関東同窓会の運営も非常に厳しい現状です。会員皆様ひとりひとりのご協力、とくに年会費の納入をお願いいたします。(役員一同)



## 鈴木株式会社

取締役社長 鈴木 通弘 (76期)

清水市入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支社 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7151



## 新日本証券

相談役 大石 巖 (53期)

本店 東京都千代田区神田駿河台3-11

☎ 03 (3219) 1111

建設コンサルタント・設計旅行業務

建築に関する御相談は御気軽に……

## 株式会社 大 雄

取締役社長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-3834-5331 (代表)

建築設計・監理

## 株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)

取締役社長 奥野 進 (56期)

取締役副社長 奥野 広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル

Tel 03-3842-6831 (代表)

静岡事務所 静岡市安東2-8-14

Tel 054-246-9378

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

## 株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6

Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547

大和工場 大和市深見3706-1

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市新郷88-47

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

## 株式会社 富士越 株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤 正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3342 (代)

TEL (3400) 9541 (代)

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科  
人間ドック

## ねつ かん 熱 函 病 院

名誉院長 小坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

総合広告代理店

## 株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正三 (67期)

東京都千代田区鍛冶町2-10-10 秋山ビル

TEL 03-3254-2171 (代表)

☎ 昼2時より夜11時まで診療

## タカラ歯科診療所

代表 薬科 名雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480